

会 議 録

会 議 の 名 称	第 1 5 回弘前城跡本丸石垣修理委員会
開 催 年 月 日	平成 2 8 年 1 1 月 2 4 日 (木)
開 始 ・ 終 了 時 刻	1 0 時 0 0 分 から 1 2 時 0 0 分 まで
開 催 場 所	弘前市緑の相談所集会室および弘前城本丸石垣発掘現場
議 長 等 の 氏 名	田中哲雄 (元文化庁主任文化財調査官)
出 席 者	北垣聰一郎、関根達人、長谷川成一、福井敏隆、麓和善
欠 席 者	千田嘉博、柳沢栄司
事 務 局 職 員 の 名 職 氏 名	(弘前市都市環境部公園緑地課) 公園緑地課長・古川勝、同課長補佐・小嶋修造、同課弘前城整備活用推進室長・神雅昭、同室総括主査・笹森康司、同室主査・横山幸男、同室主事・今野沙貴子 (記録)、同室主事・福井翔子・同室主事・蔦川貴祥 (弘前市教育委員会文化財課) 文化財課長・三上敏彦、同課長補佐・工藤雅人、同課総括主査・鶴巻秀樹、同課文化財保護係長・小石川透、同課埋蔵文化財係長・岩井浩介
会 議 の 議 題	(1) 平成 2 8 年度発掘調査について ①本丸の発掘調査状況 (2) 石垣修理について ①現場状況について ②今後のスケジュール ③現場指導アドバイザーについて
会 議 結 果	(1) 平成 2 8 年度発掘調査について ・本丸東側石垣根石の調査において、南端の下から 2 石目前面に確認された帯コンクリート部分が課題として指摘された。 ・本丸平場の天守台石垣・東側石垣北端の野面積み石垣の発掘調査成果について、概ね了承を得た。 (2) 石垣修理について ・石垣積み上げの基準勾配については、今年度末開催予定の石垣修理委員会で諮るということで、概ね了承を得た。 ・石垣解体調査については、「石垣修理現場指導アドバイザー」の方々の定期的な指導を得るということで、概ね了承を得た。
会 議 内 容 (発 言 者 、 発 言 内 容 、 審 議 経 過 、	(1) 平成 2 8 年度発掘調査について ①本丸の発掘調査状況 A. 内濠 (根石の調査) (事務局) ・石垣積み直しの基準勾配を検討するため、内濠に 2 ヲ所のト

結 論 等)

レンチを入れて根石の確認調査を実施した。トレンチは、東側石垣南端の隅角と、そこから北に 55mほど離れた、石垣の孕み出しの最も大きな地点に設定した。

- ・東側石垣南端において、下から 2 石目の面に密着する帯状のコンクリートを確認した。

(委員会)

- ・東側石垣南端の帯コンクリートの下で、根石が安定しているのか否かは大きな問題。コンクリートの一部をはつり、下部の根石や捨石、礫層・盛土の関係性を確認すること。
- ・帯コンクリートより北側の根石は、安定している。
- ・内濠に入れたトレンチは、原則として土で埋め戻すこと。

B. 天守台

(事務局)

- ・天守台石垣は、少なくとも天端から 3 石目までは全域が近代以降に積み直されている。

(委員会)

- ・天守台隅角天端石の形状は、他に類例のないものである。だが、南西隅の天端石に残る加工痕は古く、石材自体は近世からのものである可能性が高い。
- ・隅角の天端石については、形状だけを根拠に近代の所産ということとはできない。天守が再建された文化年間は、石の加工技術が発達してくる時期。近世からの形状をそのまま保っている可能性もある。
- ・天守台上面と北の郭・子の櫓跡の礎石には、隅角の天端石の形状に相違点があり、各辺の中央に大きめの石を配置する共通点がある。

C. 本丸平場北側調査区

(事務局)

- ・本丸東側石垣北端の野面積は、上 2 石については近代以降の積み直しであることが分かった。
- ・上から 3 石目の背面には、幅約 2 m の裏込が検出された。この裏込は、「盛土④」の白色粘土に挟み込まれる。
- ・「盛土④」中には瓦が含まれる。また、「盛土④」は、17 世紀後半までの遺物を含む「盛土②古」の下に堆積する。
- ・「盛土④」の下には、「盛土③」の黄褐色粘土が堆積する。「盛土③」検出面は、内濠に向かって法面を形成する。

	<p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「盛土④」からは瓦のほか、17世紀前葉～中頃の陶磁器も出土している。17世紀後半、かつ元禄の石垣築き足しよりは古い時期に、野面積石垣の積み直しが行われた可能性がある。 ・石垣解体調査で、慶長の野面積と17世紀後半の野面積の境界を把握すること。 ・石垣解体調査の際には、裏込の記録と介石の確認をすること。 ・解体調査で土層断面図を作る際には、裏込・盛土といった石垣背面構造の中での関係性と、慶長・元禄など構築時期の違う石垣同士の関係性を把握した上で記録すること。 ・石垣立面図において、近世の石垣と近代の石垣の境界線を引き直すこと。 <p>(2) 石垣修理について</p> <p>①現場状況について</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現段階で、築石への番付けは90%完了している。 ・以前に本丸東側石垣を測量してから約10年経過しているが、この10年間で新たな石垣の変位は認められない。 <p>②今後のスケジュール</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石垣積み上げの基準勾配については、年度末(3月)開催予定の委員会で諮る。 ・基準勾配を決めるに当たり課題となるのは、本丸東側石垣南端と北端で約50cmあるずれを、どうすりつけしていくのかという点。 <p>③現場指導アドバイザーについて</p> <p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石垣解体工事着手に当たり、今後は「石垣修理現場指導アドバイザー」の方々の定期的な指導を得る予定である。 <p>(委員会)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・石垣積み上げに向けて、現場で実際に石垣を扱う石工の意見も重要である。
<p>その他必要事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・会議の公開、非公開…公開 ・オブザーバー出席 (青森県教育庁文化財保護課) <p>主幹・福島隆雄</p>

(公益財団法人文化財建造物保存技術協会)

参事・橋本孝・富沢晃

(大林 JV)

所長・高橋一、沼田修、蔭川健一、一山隆昌、森岡良二、清水
慎一郎、牟田貴信